

# 住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように…

～みんなで支える地域づくり～

いつまでも住み慣れた地域で安心して生活したいというのは、誰もが願っているのではないでしょうか。  
しかし、高齢者を取り巻く状況は年々厳しくなっています。  
さまざまな社会課題に対応するため、専門職によるサービスだけでなく、地域住民も一緒になって支え合う地域づくりが求められています。

## 敦賀市の現状

全国的に少子高齢化・人口減少が課題として顕在化しており、敦賀市でも同じ問題を抱えています。  
少子高齢化が進むと、一人暮らしや高齢者のみの世帯・介護が必要な方や認知症の方などが増加します。  
それに伴い、家族介護者の負担や介護サービスだけでは解決できない困りごとなどが増加することが予想されます。  
一方で、介護に携わる専門職は、不足していきます。  
そのため、地域の中で、困りごとを抱える方が今後ますます増えていきます。

	H12.3	R3.3	20年前と比較すると
人口	68,899人	▶ 64,548人	約4,300人減
高齢者人口(65歳以上)	12,657人	▶ 18,758人	約6,100人増
高齢化率	18.4%	▶ 29.1%	約10%増

### 少子高齢化が進むと…

地域の中で困りごとを抱える人が増える



## 支え合い活動とは…

### ▶ 日常生活の困りごとに対する手伝い

生活の中で困りごとを抱えているお宅に伺い、お手伝いをする活動

掃除・ごみ出し・買い物・雪かき・見守り・話し相手など

### ▶ 多様な「通いの場・集いの場」の開催・参加

運動や体操、趣味の活動、おしゃべり・交流会など



## 地域での支え合いが大切

高齢者などが抱える生活上の困りごとについては、地域住民を中心とするさまざまな主体による支え合い活動で解決できることもあります。  
地域住民みんなが「自分」にできること「でお互いに支え合うことが大切」です。

## 地域の支え合い活動をひろげるための取り組みを進めています

西地区、松原地区では、地域の現状を把握し、地域の支え合い活動をつくり出していくために、住民チームでの話し合い「支え合いを考える会」を継続して行っています。

令和元年度には「地域づくりフォーラム」後、各地区で3回「支え合い井戸端会議」を開催し、令和2年度からは「支え合いを考える会」を開催しています。

今年度は、両地区とも7月に勉強会を開催し、「ニーズを把握するためにもみんなが発言しやすい場の設定が必要」「高齢者の居場所づくりが必要」といった声が聞かれました。

他の地区でも、今後このような取り組みを行っていく予定をしていますので、皆さんの地区で開催する際はぜひご参加ください。



「支え合いを考える会」活動の様子



津内町1丁目での活動の様子

このような取り組みから、実際に地区の中で支え合い活動が始まっています。

西地区の津内町1丁目では、高齢者へのお弁当配布や高齢者への生活サポートが始まりました。冬場は雪かきなども行う予定です。

また、松原地区では月1回体操の場が始まったところもあります。

## 地域共生のまちづくりへ

高齢者を支える若い世代が減少する中、これまでの専門職による支援だけでは行き届かない部分も出てきます。そこで、これからはご近所からボランティア、専門職まで地域みんなで支援していく必要があります。

市内でも、ごみ出しや買い物、雪かきなどすでに支え合い活動を始めている地域もあります。

高齢者や障がい者、子どもなど全ての人々が、地域や暮らしの中で役割を持ち、支え・支えられる関係を共につくる「地域共生」のまちづくりを目指しています。



### 好評配布中

### 「敦賀市情報マップ ちょっとサポート編」

市内でお手伝いサービスを行っている事業所を掲載しています。ご希望の方に配布しています。



## 地域支え合い推進員と一緒に考えていきましょう

「地域支え合い推進員」は、地域に出向いて地域で行われている支え合い活動を把握し、人と人をつなげたり、地域に必要な支え合い活動の立ち上げや運営のサポートをしたりしています。

推進員は、長寿健康課に配置していますので「みんなで地域のことを考えていきたい方」「支え合い活動に参加したい方」「支え合い活動をつかっていきたい方」は、ぜひご相談ください。

また、「支え合いなないろ通信(地域支え合い推進員通信) 第3号」では、4つの団体の支え合い活動を紹介していますので、こちらもぜひご覧ください。  
住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、支え合いの地域づくりを広げていきましょう。

